

第7節 一般外来(総合診療科)研修

一般目標

一般診療で高頻度に遭遇する疾患の外来診療、一次・二次救急診療に必要な基本的知識・技能・態度を身に付け、他職種と協調したチーム医療の重要性を学ぶ。

具体的目標

- ① 一般診療に必要な臨床上の基礎知識と医療面接の意義を理解できる。
- ② 外来患者、入院患者のもつ問題点を挙げて、それに対する診療計画を提案できる。
- ③ 患者とその家族の求めていることが何かを、述べることができる。
- ④ 適切な身体診察を行い、所見を述べることができる。
- ⑤ 必要な検査を選択して、その結果を正しく解釈できる。
- ⑥ 適切な治療法を選択し、提示できる。
- ⑦ 診療録の記載を迅速的確に行うことができる。
- ⑧ 心肺蘇生法の実施と中止の判断ができる。
- ⑨ 専門診療科に相談、紹介する患者を選択できる。
- ⑩ 治療方針の決定においては、指導医のみならず、他職種(看護師・薬剤師・検査技師・療法士・ソーシャルワーカー・事務スタッフ)と相談することができる。
- ⑪ 重症病態に対する知識を持ち、対処法を述べることができる。
- ⑫ 重症病態に対する治療法を理解できる。

実臨床研修

- ① 毎日指導医とすべての外来、入院担当患者について検討を行う。
- ② 新患については自ら病歴聴取と診察を行い、その所見を指導医の診察により確認する。また指導医とともに診断・治療方針について検討を行う。
- ③ 入院担当患者の退院時に指導医の指導のもと退院要約を作成する。その際に最新の治療指針、ガイドライン、文献をもとに考察を行う。
- ④ 症例をまとめて研究会・学会・学術誌に発表する。発表の方法を学ぶ。

研修評価

- ① カンファレンスでの発表を評価する。
- ② 部長と指導医が評価表にて評価する。

2年目のローテーションで学ぶこと

総合診療科はこれまで通り、かかりつけ医などで診断困難な症状へのアプローチ、研修医が経験すべき症候や疾患、専門診療科のみでは対応困難な病態などを中心に学んで

いくことになる。

その中で2年目にローテーションされた研修医が学ぶべきことは

- ① 一般外来、身体診察などのブラッシュアップ
- ② 1年目研修医と共同で病棟患者を担当しながら、リーダーシップの養成やワークシェアリングも含めた医師としての働き方がまず挙げられる。

また当科は様々な診療科と連携をしながら日々の診療を行っていることもあり、以下のことも本人の希望に合わせて研修が可能である。

- ① 国際診療部での診療やCase Presentationを行うことによる英語力up
- ② リウマチ膠原病内科の外来および病棟業務
- ③ Point of Care 超音波(POCUS)によるVolume評価などの実践
- ④ 臨床検査部(例えば細菌検査室での培養検査や超音波検査など)の実践

が可能なように準備している。これ以外にも研修医としての希望(例えばNSTなど各チーム医療への参加)があれば、その要望に応じていく予定である。

これらはPrimary Care診療可能な医師の養成の意味では必須であり、当科をローテーションすることの意義は高いと思われる。

1年目

	月	火	水	木	金	(土)	(日)
午前	朝カンファ 病棟回診 外来	朝カンファ 病棟回診 外来	朝カンファ 病棟回診 外来	朝カンファ 病棟回診 外来	朝カンファ 病棟回診 外来		
午後	病棟回診 タカンファ	病棟回診 タカンファ	病棟回診 医療安全 委員 タカンファ	病棟回診 タカンファ	教育カン ファ タカンファ		

外来は総合診療科外来のみ

第 12 節 総合診療科〔選択科向け研修〕

一般目標

総合診療科はこれまで通り、かかりつけ医などで診断困難な症状へのアプローチ、研修医が経験すべき症候や疾患、専門診療科のみでは対応困難な病態などを中心に学んでいくことになる。

具体的目標

経験すべき疾患としては初期研修医が経験すべき疾患、症候に合わせている。

- ① 一般外来、身体診察などのブラッシュアップ
- ② 1 年目研修医と共同で病棟患者を担当しながら、リーダーシップの養成やワークシェアリングも含めた医師としての働き方
- ③ 1 年目のローテーションで研修ができなかった部分や学びなおしたい部分を希望に合わせて研修する。

実臨床研修

一般外来研修においては研修日数が足りない場合に限らず、希望があれば適宜行っていく。受け持ち患者の診察を行い、指導医と相談、検討し、朝夕のカンファレンスでのプレゼンテーションを行う。

患者の診療にあたり、新の治療指針、ガイドライン、文献をもとに行う姿勢を持つ。

受け持ち患者数については、指導医が調整を行っていく。

退院時サマリーは遅滞なく作成する。

金曜日の教育カンファレンスに参加し、発表をする。

また当科は様々な診療科と連携をしながら日々の診療を行っていることもあり、以下のことも本人の希望に合わせて研修が可能である。

- ① 国際診療部での診療や Case Presentation を行うことによる英語力 up
- ② リウマチ膠原病内科の外来および病棟業務
- ③ Point of Care 超音波 (POCUS) による Volume 評価などの実践
- ④ 臨床検査部 (例えば細菌検査室での培養検査や超音波検査など) の実践

が可能なように準備している。これ以外にも研修医としての希望 (例えば NST など各チーム医療への参加) があれば、その要望に応じていく予定。

研修評価

朝夕のカンファレンスや病棟回診を通じて、適宜評価を行っていく。

ローテーション終了後に研修評価表にて部長と指導医が評価をおこなう。

2年目

	月	火	水	木	金	(土)	(日)
午前	朝カンファ 病棟回診 外来	朝カンファ 病棟回診 外来	朝カンファ 病棟回診 外来	朝カンファ 病棟回診 外来	朝カンファ 病棟回診 外来		
午後	病棟回診 タカンファ	病棟回診 臨床検査 部 タカンファ	病棟回診 臨床検査 部 タカンファ	病棟回診 臨床検査 部 タカンファ	教育カンフ ア 臨床検査 部 タカンファ		

外来は総合診療科、国際診療部、リウマチ膠原病内科の外来を含む

午後の臨床検査は微生物検査と心エコーの研修を含む